

たつのの農業をたてなおそう！

～「女性」×「農業」＝ワークライフバランスを目指すために～

2019年7月28日

@たつの市産業振興センター

同志社大学 政策学部 田中ゼミ3回生

池田侑加 平山陽菜 小南菜名子 内海航希

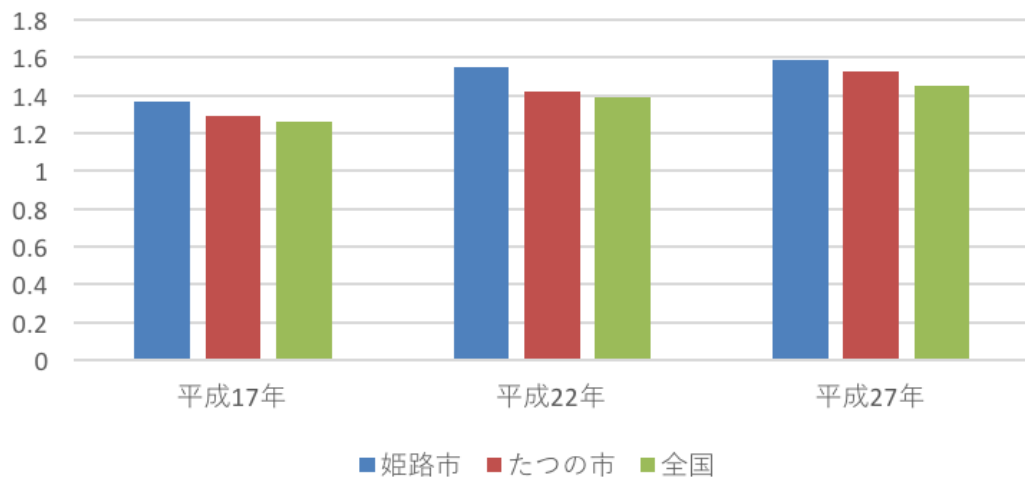
発表の流れ

1. 現状分析と現状認識
2. 問題設定
3. 私たちの考え
4. たつの市の農業の現状
5. 農業立て直しの方向性

6. 政策提言
7. 参考文献・参考資料
8. 参考資料

1. 現状分析と現状認識

合計特殊出生率



兵庫県情報事務センター発表の市町別合計特殊出生率より作成

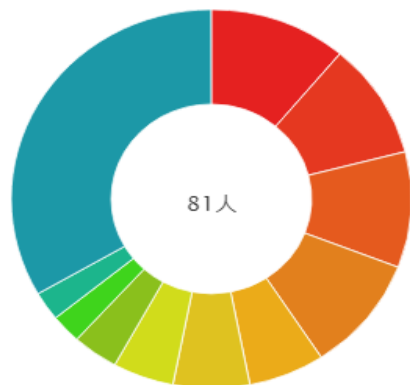
✓ 姫路市も
たつの市も
少子化が
進んでいる

✓ たつの市
の少子化は
姫路市より
進んでいる

兵庫県たつの市 From-to分析（定住人口）2017年

転入超過数内訳

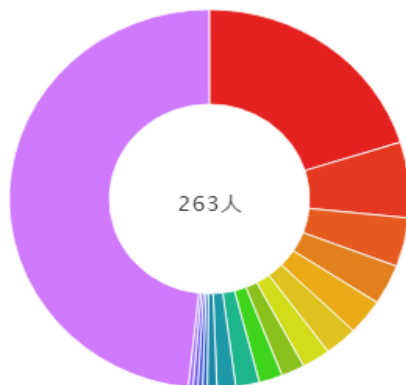
女性 総数



- 1位 兵庫県宍粟市 9人 (11.11%)
- 2位 兵庫県福崎町 8人 (9.88%)
- 2位 兵庫県朝来市 8人 (9.88%)
- 2位 兵庫県豊岡市 8人 (9.88%)
- 5位 岡山県岡山市北区 5人 (6.17%)
- 5位 兵庫県神戸市兵庫区 5人 (6.17%)
- 7位 兵庫県神戸市須磨区 4人 (4.94%)
- 8位 兵庫県神戸市灘区 3人 (3.70%)
- 9位 兵庫県佐用町 2人 (2.47%)
- 9位 兵庫県上郡町 2人 (2.47%)

転出超過数内訳

女性 総数



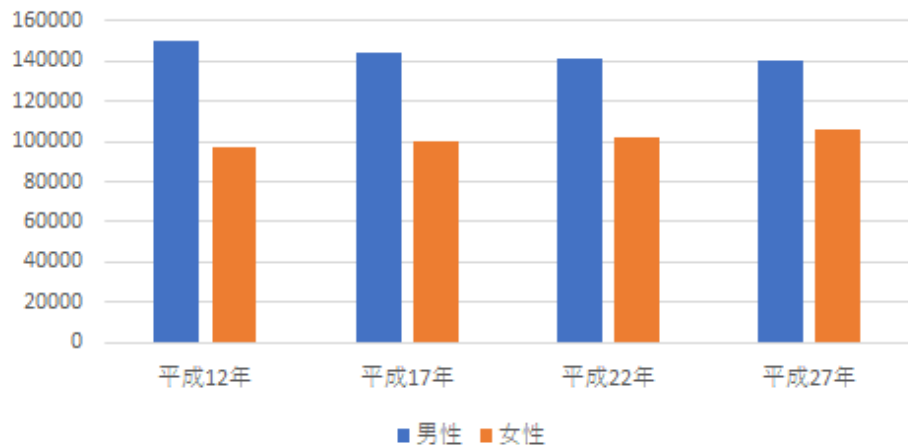
- 1位 兵庫県姫路市 53人 (20.15%)
- 2位 兵庫県明石市 17人 (6.46%)
- 3位 兵庫県神戸市中央区 11人 (4.18%)
- 4位 兵庫県太子町 9人 (3.42%)
- 5位 兵庫県西宮市 8人 (3.04%)
- 6位 兵庫県相生市 7人 (2.66%)
- 7位 兵庫県三田市 6人 (2.28%)
- 8位 兵庫県赤穂市 5人 (1.90%)
- 8位 兵庫県神戸市長田区 5人 (1.90%)
- 8位 兵庫県神戸市東灘区 5人 (1.90%)

✓ たつの市から
女性が流出している

【出典】

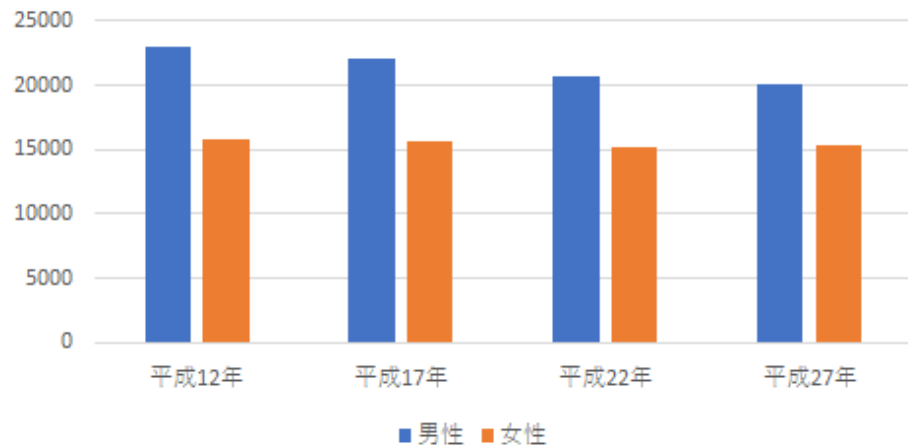
総務省「住民基本台帳
人口移動報告」

姫路市男女別就業者数



総務省統計局、国勢調査結果より作成

たつの市男女別就業者数



総務省統計局、国勢調査結果から作成

✓ たつの市の女性の就業者数は、姫路市に比べて、減少傾向にある

現状分析まとめ

- ✓ たつの市の少子化が進んでいる
- ✓ 地域から女性が流出し少母化が進んでいる
- ✓ 姫路市に比べ女性の就労は減少傾向にある
(たつの女性が姫路市など他市に働きに出てしまっている)

2. 問題設定

女性がワークライフバランスを図りながら働くことができる女性の就業場所をつくる

結婚後も働き続けて貰うことで経済的ゆとりができ、多くの子供を持てる

少子化対策につながる

3. 私たちの答え

**女性がワークライフバランスを図りながら働く
ことが出来る女性の就業場所をつくる**

政策手段

「女性」 × 「農業」

以下の方に6月19日インタビュー調査に行きました

あきふぁ～む代表 三木 亜紀さん

グランドファーム神尾代表 神尾 征典さん

株式会社 ささ宮農 八木 正邦さん

まんまる農園 花田 未来さん

インタビューを踏まえて発表します

なぜ「女性」×「農業」に着目したのか？

①女性は農業に向いている

②「女性」×「農業」＝ワークライフバランス
を可能にする

①本当に女性は農業に向いているのか？

“農業”の『3K』イメージ

- ・ キツイ
- ・ 汚い
- ・ 給料低い

農業に対する

ネガティブなイメージ



しかし、実は農業は…

女性ならではの強み

〈販売力の強さ〉

- ・ コミュニケーション能力
が高い
- ・ ネットワーク力が高い
- ・ 情報感度が高い
- ・ きめ細やかな気配りが
できる

〈女性特有の視点・アイデア〉

- ・ 消費者視点を持っている
- ・ 直感力が高い
- ・ 人や物を育てるのが得意

女性の強みを
生かせる仕事！

② 「女性」 × 「農業」 = ワークライフバランス
は可能なのか？

「女性」×「農業」先進事例

甘くておいしいフルーツトマトを生産する農業女子

ドロップファーム代表 三浦綾佳さん(茨城県水戸市)

- ✓ **最先端の農法**で高品質のフルーツトマトを生産
- ✓ 女性が働きやすい様に就労時間を明確化し**フレックスタイム制**
を採用、**充実した休暇制度の導入**
- ✓ 自分たちで一からの商品づくり



農業は女性がワークライフバランスを実現しやすい

✓ 働く時間を自分調整することができるため

時間的な融通が利き、育児と仕事を両立できる

✓ **自分のペースで仕事ができる**

✓ 子供が生まれて食への関心が高いママさんにも
適している

✓ 地域とのつながりが持てる



**女性がワークライフバランスを図りながら働く
ことが出来る女性の就業場所をつくる**

政策手段



「女性」 × 「農業」 は効果的

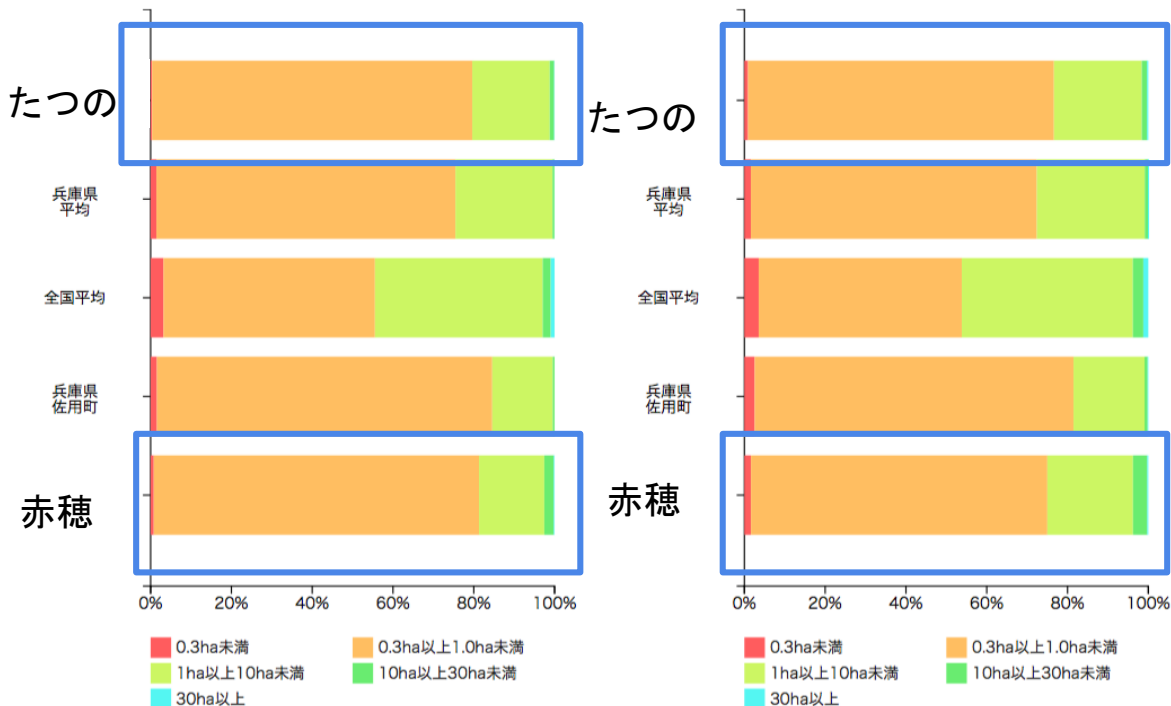
4. たつの市の農業の現状

経営耕地面積規模別の経営体の割合

指定地域：兵庫県たつの市

2010年

2015年



【出典】

農林水産省「農林業センサス」再編加工

【注記】

旧市区町村とは、1950年（昭和25年）当時の市区町村。

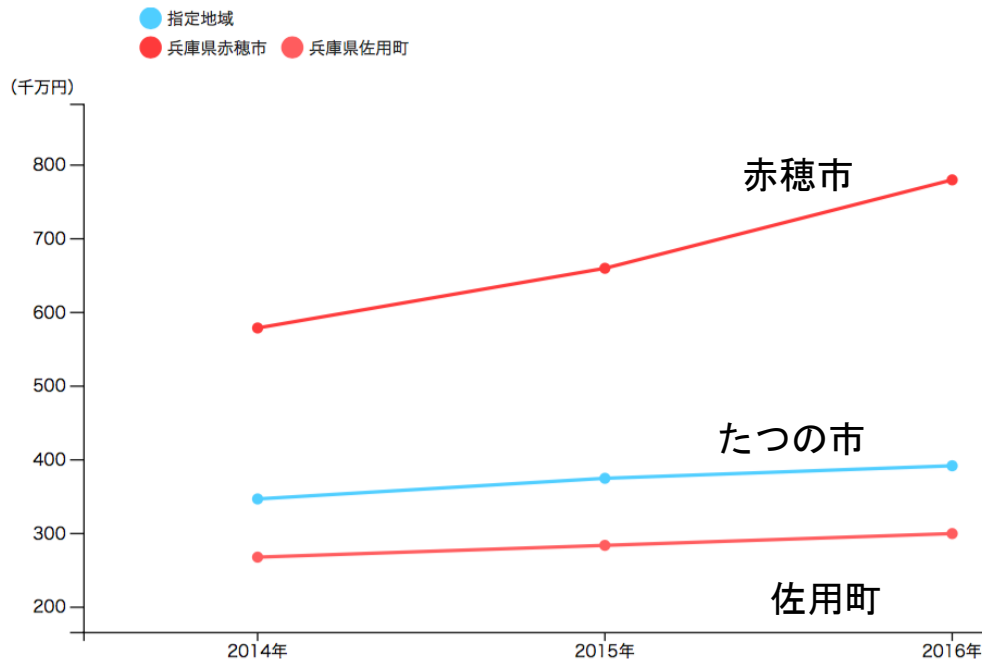
合算機能において秘匿値が含まれる地域を合算した場合、当該地域の数値は合算結果に反映されない。

✓赤穂市と比べ
1つの農家当たりの
面積は同程度

農業産出額（総額）

指定地域：兵庫県たつの市

農業部門：すべての農業部門



【出典】

都道府県単位

農林水産省「都道府県別農業産出額及び生産農業所得」

市区町村単位

農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」

【注記】

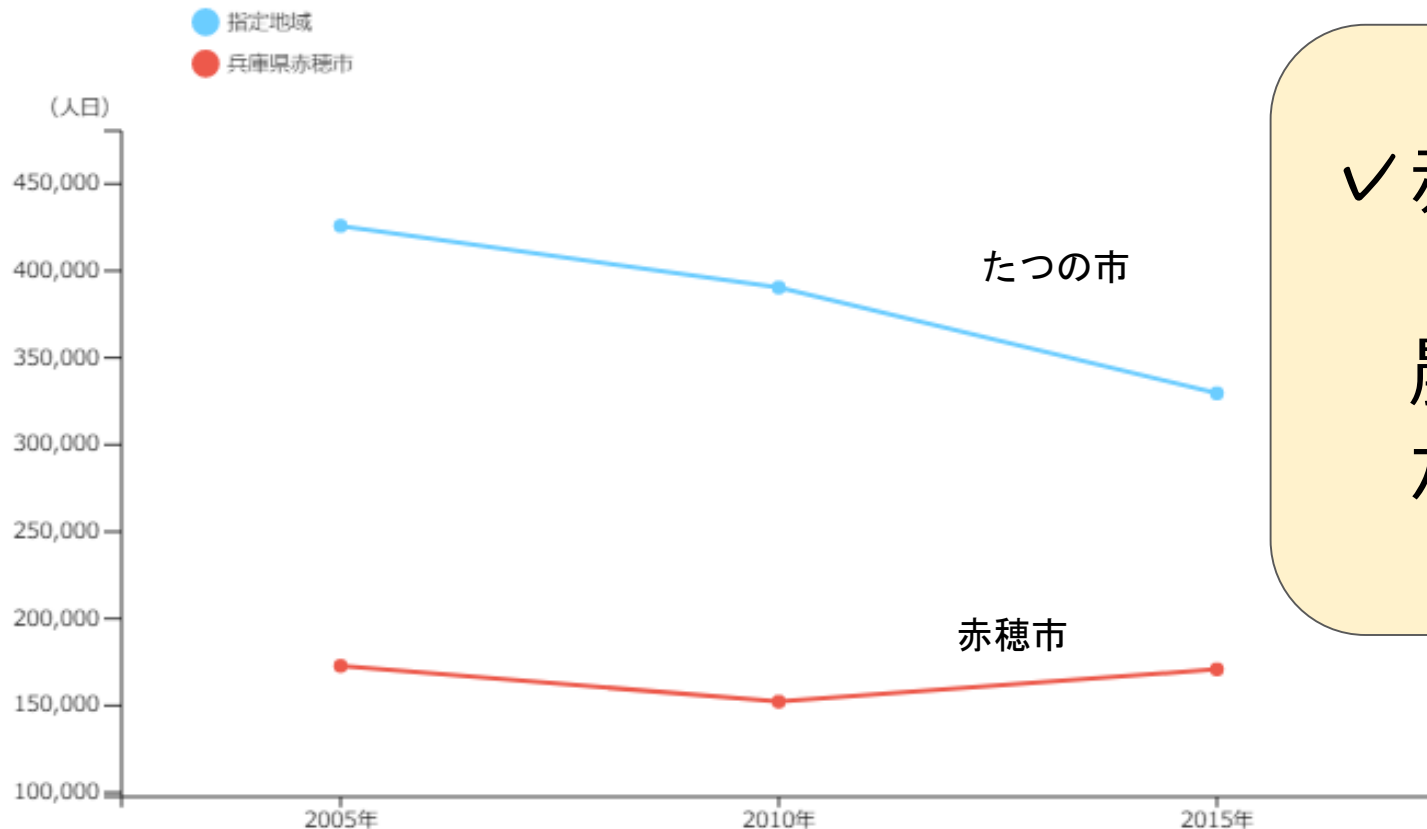
「その他の畜産物」には、農林水産省「都道府県別農業産出額及び生産農業所得」及び「市町村別農業産出額（推計）」で示される「鶏」から「鶏卵」と「ブロイラー」を減じた値を含む。

合算機能において秘匿値が含まれる地域を合算した場合、当該地域の数値は合算結果に反映されない。

✓たつの市の農業の
農業産出額は
赤穂市ほど高くない

年間延べ農作業日数

指定地域：兵庫県たつの市



✓ 赤穂市に
比べ
農業日数
が多い

【出典】
農林水産省「農林業セン
サス」再編加工

統計から分かること

たつの市の農業は

経営規模は赤穂市と同じくらいなのに…

- ✓ 儲かっていない（売上高が赤穂より低い）
- ✓ 作業効率が悪い（作業日数が赤穂より長い）

⇒ 長時間労働で儲けが少ない農業

定年世代



年金、退職金で生計を
立てる

赤字でなければいい

安く売ろう！

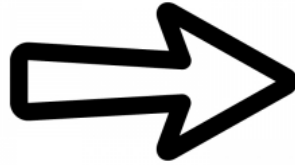
勤労世代



農業で生計を立てたい

安く売る定年世代に
太刀打ちできない

仕方なく安く売る



✓ たつの市内の農家同士がライバル関係

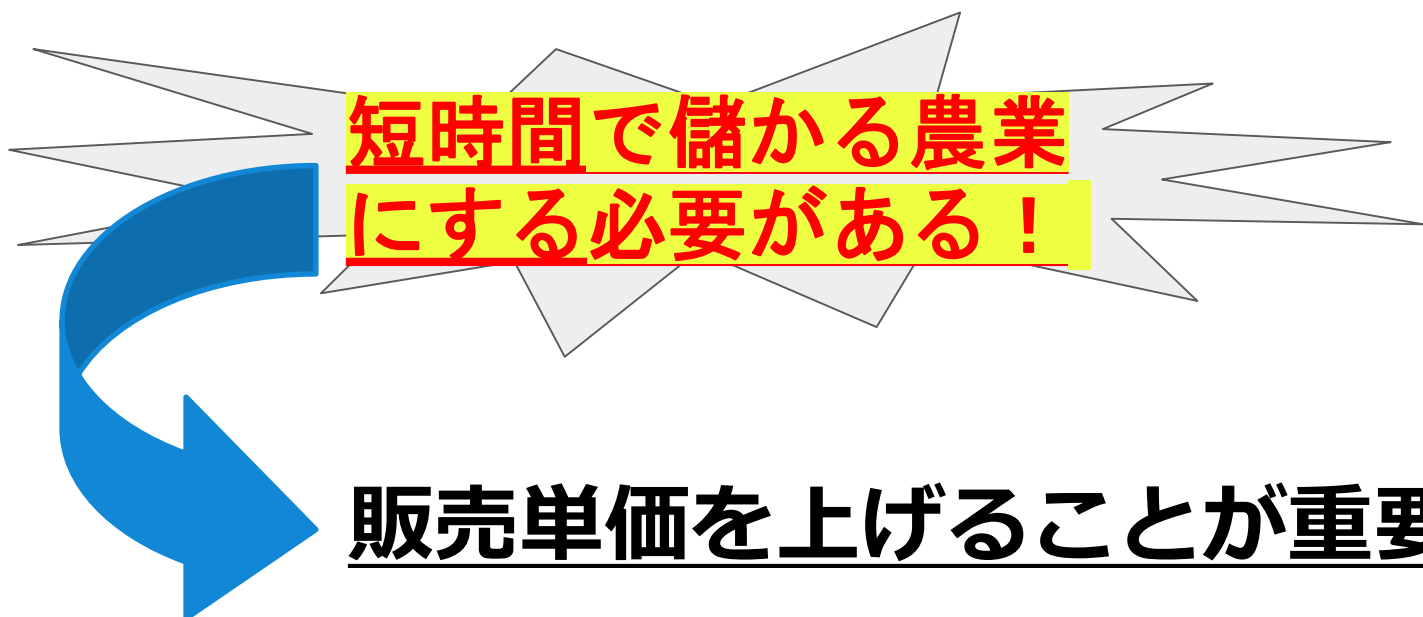
⇒ 値下げ競争

✓ 1つ1つの農業規模が小さい

⇒ 大きな販路先がない

儲からない！

では、ワークライフバランスを確立できる女性の
働き口としての農業にするためには…



**短時間で儲かる農業
にする必要がある！**

販売単価を上げることが重要

5. たつの市の農業を 立て直すための方向性

短時間で儲かる農業実現ための主体

**農業を主たる収入源とする（考えている）
勤労世代**

定年世代が売らない市場をターゲットにする

①ネット販売

ターゲット⇒中高所得層

メリット⇒単価をあげることができる

②小規模農家の提携により大きな販売先を開拓

ターゲット⇒企業

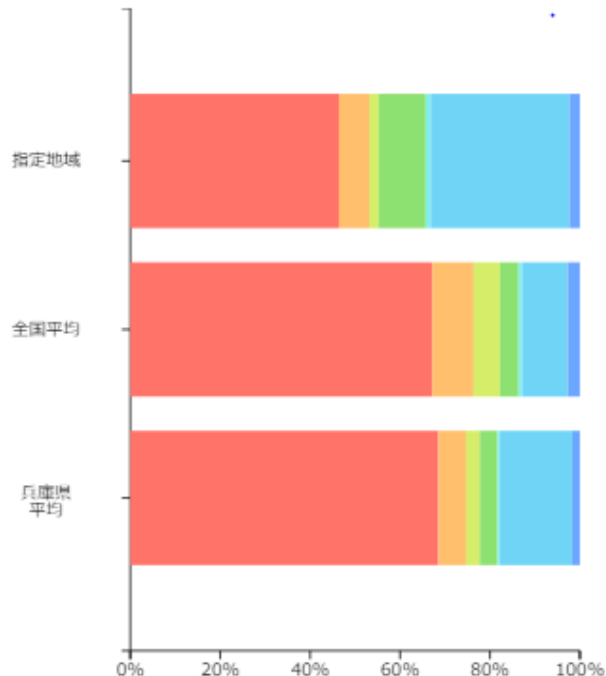
メリット⇒安定した収入確保

①ネット販売

農産物の出荷先別経営体数の割合

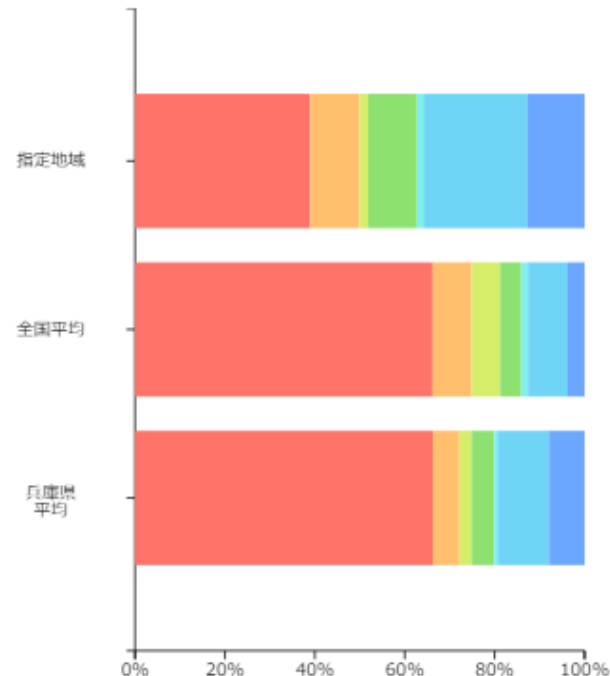
指定地域：兵庫県たつの市

2010年



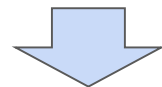
■ 農協
■ 農協以外の集出荷団体
■ 卸売市場
■ 小売業者
■ 食品製造業・外食産業
■ 消費者に直接販売
■ その他

2015年



■ 農協
■ 農協以外の集出荷団体
■ 卸売市場
■ 小売業者
■ 食品製造業・外食産業
■ 消費者に直接販売
■ その他

✓ 全国平均や兵庫県平均よりも、既にたつの市は消費者に**直接販売**している割合が多い



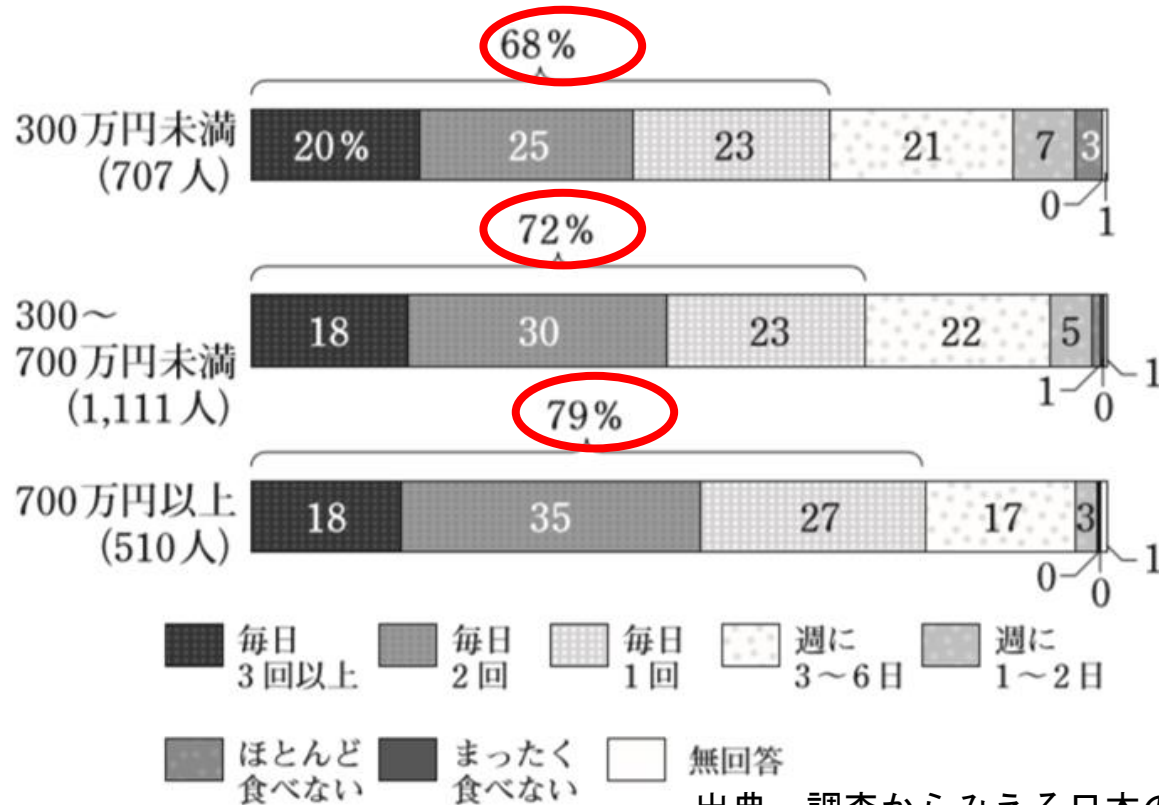
ネット販売

出典】

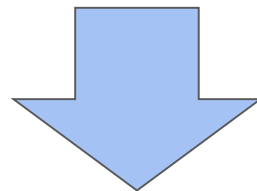
林水産省「農林業センサス」再編加五

中高所得層をターゲットに

食べる 野菜の頻度（世帯年収別）



✓ 年収が高いほど野菜を食べる頻度は高い



ネット販売の
ターゲットとして
**中高所得者
は望ましい**

ネット販売でのメリット

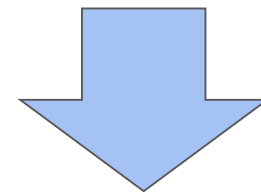
・スーパーマーケットにならべる場合



・ネット販売の場合



✓ 仲介業者や
小売業者を
間に挟まない



単価をあげる
ことができ、
儲けられる

三浦さんのドロップファームでも…



ネット販売で単価を上げて売っている

1キロ箱	¥ 2,500
2キロ箱	¥ 4,800
3キロ箱	¥ 7,000

三浦さんの売り上げ

2015年 9月期 802万円

2016年 9月期 1,398万円

2017年は2016年の倍の売り上げ見込み

トマト農家の平均収入約557万円



②小規模農家の提携により 大きな販売先を開拓

農家A

農家B

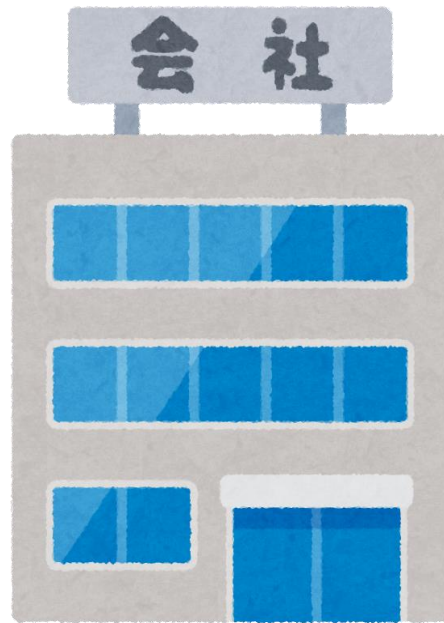
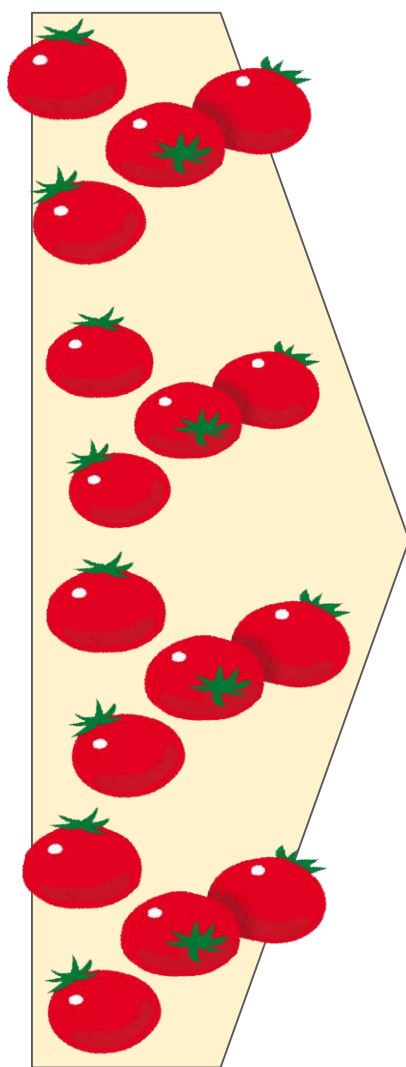


提携



農家C

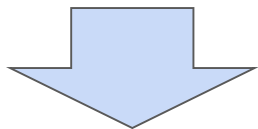
農家D



大きな販路先
獲得

農家提携の成功事例

実際にインタビューで三木さんたちの農家は
農家同士が提携することでヒガシマルヘネギをお
ろす販路を見出した



結果

- ✓ 安定した収入の確保
- ✓ 企業からの農業サポートを得られる

6. 「女性」×「農業」 実現のための政策提言

3つの政策提言

①農家とママの
マッチングネット
ワーク

女性の就農人材
の発掘

②コラボ
就農支援
補助金

小規模農家の
提携を促進

③たつの
農業公民館

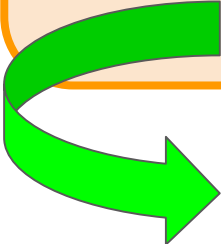
農業を目指す
人の就農教育

政策提言 1

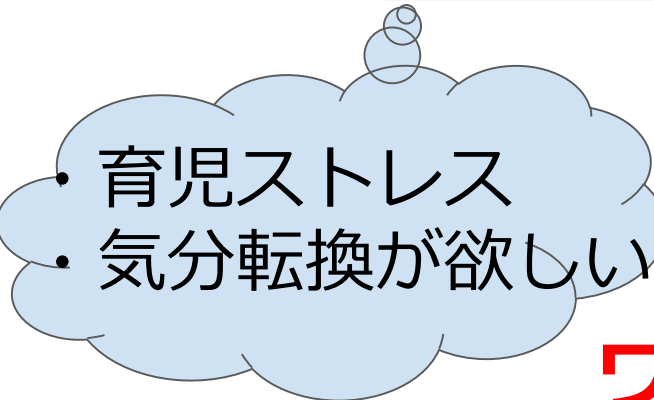
①農家とママのマッチング ネットワーク

マザーズライフサポーター（NPO法人）の
活動の1つ

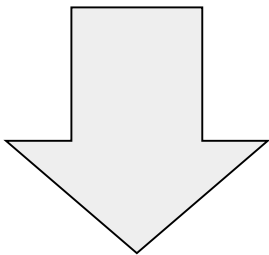
コラボワーク(にコラボ)の推進



ママ × 農業

- 
- ・育児ストレス
 - ・気分転換が欲しい

- 
- ・人手不足で悩む



ワークシェアリング

メリット

農家

短時間お手伝いしてくれる人手の確保
農業の楽しさを知ってもらえるチャンス

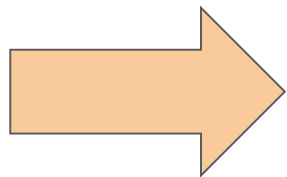
ママ

リフレッシュ、
ママ友づくり、悩み相談、
子供を無料で見てもらえる+少し報酬あり

現在この活動は口コミで広がるほど人気
⇒ママからの需要がある（三重県鈴鹿市でも人気）

行政がコラボワークを公認しPRする

マザーズライフサポーターのコラボワークの活動は
口コミで広がり、需要もあるがまだまだ人は少ない状態



市がその活動をPRする

メリット

- ✓市公認の活動であれば、安心して参加できる
- ✓より多くの人手を集められる

コラボワークの流れ

ママさん

コラボワークに申し込み



時間や内容を選択



子供を預ける



お手伝い開始

農家さん

コラボワークの募集



時間や内容の提示



ママさんを受け入れ、
手伝って貰う

② コロナ就農支援補助金

✓ ロボット技術やICTの導入

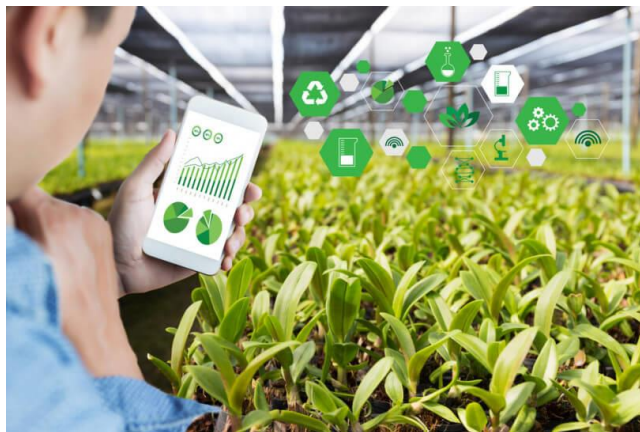
……間引きや田植えをロボットに任せて
作業効率up

……害虫や病気の自動検出

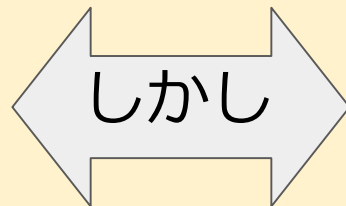
最新技術を駆使すれば

農業を効率的に行える！

女性も農業で生計を立てられる！



短時間で儲かる
農業には
効率性が必須

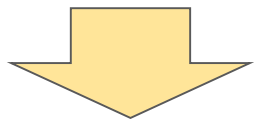


最先端ICT機械
などの導入には
お金がかかる

そこで

初期投資として市から
補助金を出してもらう必要がある

しかし、ただ単に補助金を出すのではもったいない



そこで

- ✓ **農家同士が協力すると補助金を貰える仕組み**にする
- ✓ **協働で機械を使う**形を促す

メリット

- ✓ 農家同士の協力、意思疎通のきっかけになる
- ✓ たつの農家がライバルでなく協力関係の機会
- ✓ 勤労世代の農家の一体感

方法（イメージ）

面積 1 当たり補助金100とするととき



= 欲しい
機械の金額
500

農家A



面積 3 で補助金**300**

農家B



面積 2 で補助金**200**

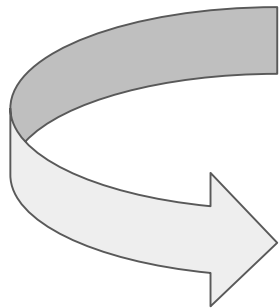
しかし

協力する
ことで
**面積 5
補助金500**
になり機械
が買える

農家A、Bそれぞれ
では機械が買えない

補助金を出す方法

- ✓ 耕地面積の規模に比例して補助金を与える
 - ✓ いくつかの農家が協力して耕地面積を広げ、
補助金をもらう
- ⇒ 耕地面積が広がるほどいい機械を購入できる



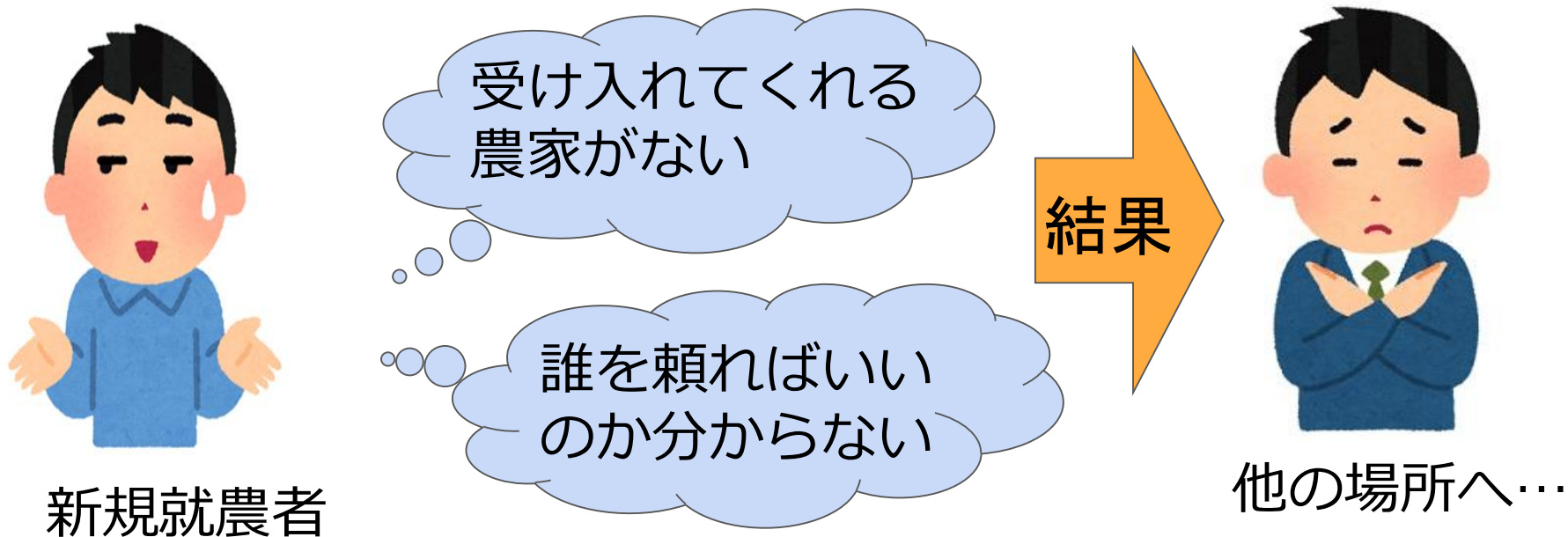
効率的な農業の実現

政策提言 3

③ たつの農業公民館

③たつの農業公民館

新規就農者が農業を始める際に
必要なことを学べる場所の必要性



農家

行政

新規就農者



**勤労世代と行政が定期的に
話し合いができる場**

- ✓ 勤労世代の農家の連携体制
- ✓ 町の市の農業の方向性の確認
- ✓ 行政の農業状況認知
- ✓ ノウハウの共有



新規就農者育成

- ✓ ノウハウをレクチャー
- ✓ お悩み相談
- ✓ 販路先の紹介

行政側の新規就農者への支援プログラム

初期投資
資金の補助

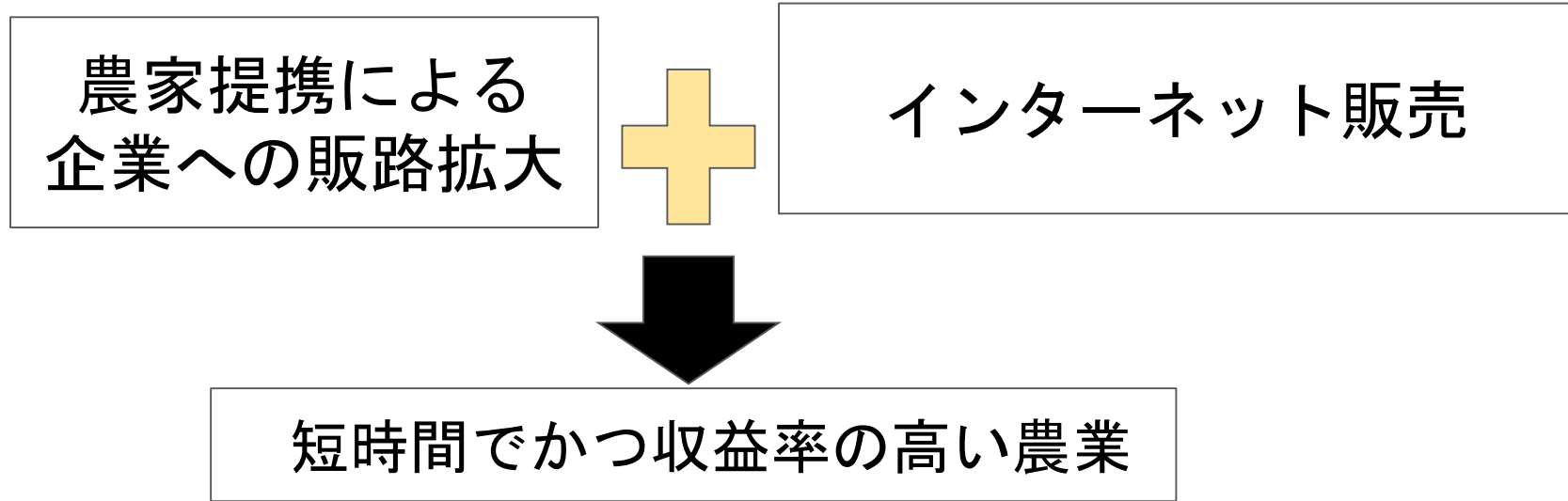
最低収入の
保証支援

(売れる野菜ができるまで
2年以内を目標、公民館協力)

提言まとめ

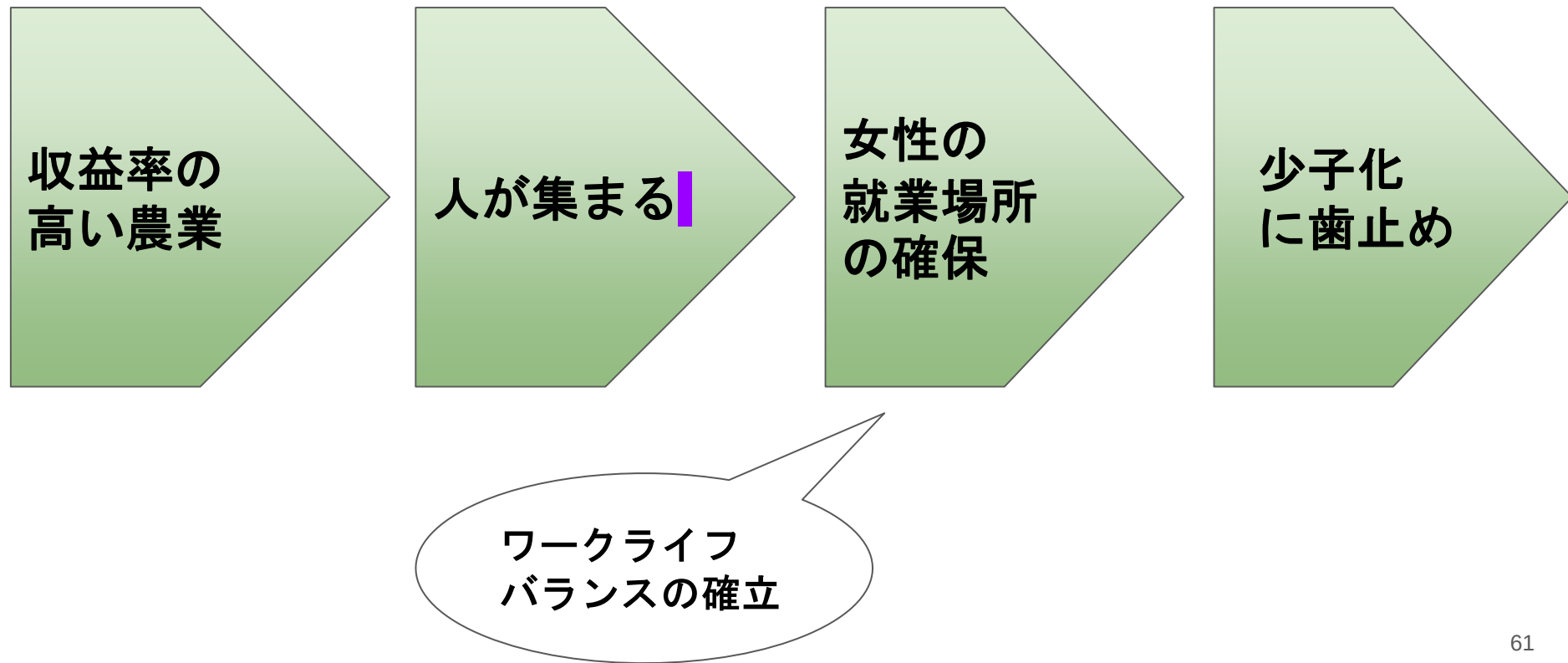
提言まとめ

✓ ①女性の人材確保 ②農業効率化 ③新規就農教育



✓ マザーズのママたちに育児が落ち着いてから農業を仕事にしてもらうことによる **「女性×農業」** の実現

最終目標



残された課題

- ✓ 農作物のブランド化・高付加価値の戦略
(ex. 揖斐川トマトのブランド化)
- ✓ 農地の流動化（放棄耕作地の有効活用）
- ✓ 地域就農人教育
(子供のうちから農業に興味をもたせる)

7. 参考文献・参考資料

(論文)

村田 ひろ子、政木 みき、萩原 潤治 (2016) 「調査からみえる日本の食卓 一食生活における世論調査から」 『放送研究と調査』 2016年10月号、pp.54-83

(インターネット)

たつの市ホームページ

<http://www.city.tatsuno.lg.jp/kouhohisho/gaiyou.html>

たつの市ビジョン

<http://www.city.tatsuno.lg.jp/kikaku/documents/jinkouvision.pdf>

7. 参考文献・参考資料

マイナビ農業

https://agri.mynavi.jp/2018_09_19_38630/

マイナビウーマン

<https://woman.mynavi.jp/article/170324-5/2/>

ドロップファーム

<https://a-sounanda.com/miura-ayaka>